

在日華人 女性交流会

ちょっと一言

亚洲祭奠—2007年义卖活动

2007年第二回活動案内

从“年轻的朋友来相会”想到的

撑起一片女人的天空

脳卒中予防10ヵ条

当你的孩子遭遇“欺侮”

小遣いについて

反抗期の交流

又逢佳节

ACWJサッカーチーム募集案内

温家宝首相演説全文 国会演説

〈教育の現状〉

・現状からみえるもの

社会の歪みは家庭や教育の現場に端的に表れてきています。テレビや新聞を賑わしている事件をみると、凶悪な犯罪が多すぎます。特に少年犯罪の性質は“良い家庭”の“良い子”と誰もが思っていた子が突然考えられないような凶行に走ってしまう。なんと痛ましいことでしょうか。

明治以降、近代教育は富国強制（国を富ませ、兵力を強くする）・殖産興業（産業をさかんにして、財産を増やす）を掲げ軍事力増強のための教育だったり、経済のための教育だったり教育のあり方が時代によって異なってきました。いわゆる国家、社会の目標がまずありきで「人間形成」を目指すはずの教育が、その手段になったということです。

もう一つ懸念しているのは教育全体が「商業化」されていることです。教育全般の商業化が進むと功利的知識だけの教育が求められ、利益をもたらすものだけが評価されます。その結果、教育の文化的・社会的比重がどんどん低下していきます。

・教育とは

教育とは“人を善くしよう”という思いに立ち教え、育てる営みをいいます。

善くとは社会生活を営むうえで人として守るべき行為の基準です。ですから教育があって、はじめて人が「善人」になれるのです。その「善人」が社会、国家の担い手となるが故に「教育」が根本です。評価のよりどころを他人の不幸の上に自分の幸せは築けないとおき「教育のための社会」創りへの軌道修正を試みる時がきていますと感じます。

〈グローバル社会に住む人間に求められる姿〉

・グローバル社会の落とし穴

工業社会から情報社会へ移行する過程を「グローバル化」と名付けられています。この流れの中で起こるものとして大きく二つ挙げました。

——貧富の差の拡大

貧富の差の拡大は教育を受ける機会の均等性を失わせます。貧困は犯罪の増加、教育の欠如や家庭の崩壊などを引き起こす温床となり得ます。

——情報と物が溢れるため、精神世界と物質世界の認識が欠落します。

精神世界と物質世界の両面を人間が正しく認識するために、人間であるために必要な「基礎知識」を身につけることが大事になります。認識の基礎は文化・言語・歴史です。

文化の合意は、人に接する際のマナーや言葉遣いといった風俗・習慣次元を包み込む人間の生き方そのもので、伝統的に受け継がれてきた生活様式の総体を指し、言語や歴史を包含したものです。文化と教育はかけ離れてはいけないものなのです。

・求められるものは

情報の洪水から身を守る術として良書に親しむことを提案します。

読書の持つ能動性、それを持続させる忍耐力、他者の喜びや悲しみへの共感性を育む想像性など、いずれも人間が身につけるべき“人間力”を培います。

・グローバル社会に住む人間に求められている姿は

セルフメイド・マン

自律—自分で自分を律すること。

自立—自分の力で独立すること。

自律・自立を兼ね備えていける個人をいい、グローバル社会に住む人間に求められる姿です。最も大事なことは、グローバル社会の流れの中で人々がどのように幸福感を感じとっていけるかではないでしょうか。

◎損をしないためのアドバイス

勉強の目的は「魅力ある人間」になるためです。

「魅力ある人間」とは

正しいことは正しい、悪いことは悪いとはっきり主張し行動する人。

人の心の痛みがわかる人。

「やろう」と決めたことはとことんやりぬく人。

自分と違う人の長所を尊敬し、嫉妬なんかしない人。

一番ばかばかしいことは、学校の成績が悪いといって「自分はダメ」と思いこむこと。

悩み・迷っているとき

自分の力を必要とする人が必ずどこかにいる。

自分にしか出来ないことがある。

目の前の「現実」から逃げないこと。

逃げずに頑張る「くせ」をつけること。

人生の敗北とはなにか

失敗することではない。失敗したとき、自分をあきらめてしまうこと。再び立ち上がらないこと。

亚洲祭奠—2007年义卖活动

李 藝

4月18日（星期三）我和王婕两人在全日空饭店会合，参加了日本的亚洲妇女友好会组织举办的亚洲祭奠—2007年义卖活动。

我们是闻讯来参加活动的，据说这种大型的义卖活动每年4月都在东京举办。亚洲，大洋洲的24个国家通过他们在日本的大使馆来参与了这项活动。他们把各国的珍贵工艺品，美味的传统佳肴和各国多彩的民族歌曲，舞蹈等文化都带到了这个会场。各国一个摊位，收益全部捐助给参加国的福利和教育设施。

我们进入全日空饭店后，看到B1的空间里熙熙攘攘，每个摊位都很火爆，挤不到近前。难怪呢，各国珍品异品都可以廉价买到，土耳其的纱巾，尼泊尔的布袍，韩国的传统裙子，斯里兰卡的玛瑙项链等等五花八门，令人眼花缭乱。同时各国的料理也争相展示，印度的纯正咖喱，中国的水饺蛋花汤，柬埔寨的米粉，斐济的海鲜料理，引人胃口。

正午时分，一侧的舞台上音乐响起，来自菲律宾和马来西亚的舞蹈队员跳起了优美的民族舞蹈，那悠扬的舞曲加上窈窕的舞姿，让我觉得好像这不是东京，而是置身在东南亚的风情里。

以日本首相安倍夫人为首，各国的大使夫人都盛装出席了大会，观看了演出。各国的国花还为大会各带来了一份礼物，24份礼物由在场的全体参加者抽选。我和王婕虽然都无幸中选，但购物带来的兴奋和大大满足的胃口，让我们毫无怨言了。况且，我们参加都为亚洲各国的福利及教育事业的发展能有哪怕是一点点地贡献，也就心满意足了。

期待着明年4月的活动更盛大，更火热。



在日華人女性交流會2007年第二回活動のご案内

時間：6月23日（土曜日）

場所：千葉市の稲毛海岸周辺

交通：京成千葉線京成稲毛駅より5分、JR総武快速線稲毛駅より15分

内容：①11:30～稲毛公園（入場無料）公園で集合、遊び

12:00～ピクニック（雨の場合は近くのレストランで）

②13:00～各種施設見学巡り

浅間神社（入場無料）

稲毛ゆかりの家（愛新覚羅氏旧居、入館無料）

（千葉市）市民ギャラリー（入館無料）

稲毛海浜公園・花の美術館（入館料：大人200円、小中学生100円）

③15:30～稲毛海浜公園・浜辺でゲーム、おやつ、歓談（雨の場合は中止）

費用：会員とその家族は参加無料、但し、入場料、食事代などは自己負担

非会員は参加有料（500円/人、12歳以下無料、18歳以下半額）、各種実費自己負担

持参品：レジャーシート、日傘、飲食物、タオルなど、ティッシュなど。動きやすい服で。

お問合せ：メール：acwj03@hotmail.com、電話：莊（080-3469-2921）

从“年轻的朋友来相会”想到的

——访著名作曲家谷建芬

“再过二十年，我们来相会，伟大的祖国该有多么美”优美的旋律和歌词对每一位踏入而立之年，不惑之年的来日华人来说都不陌生，我们正是唱着谷建芬创作的“年轻的朋友来相会”这支歌长大的八十年代的新一辈。

一曲“年轻的朋友来相会”把我们的记忆带到了我们风华正茂的年轻时代，那时的我们对祖国的未来和实现四个现代化充满了憧憬和希望，想象着二十年后我们是什么样子。这之后，我们飘洋过海，在异地他乡开始奋斗，付出了汗水和泪水，学有所成，学有所用，歌曲也成了现实。我们的祖国也正在发生着飞跃性的变化，令我们这些海外的游子们无不感到她的变化之快，甚至让我们难以适应。

5月23日，作为“在日华人女性交流会”的代表，我和庞玲参加了全国人大华侨委员会访日团举办的座谈会，有幸拜会了作为代表团成员的古建芬老师。年过七旬的古建芬老师，比实际年龄显得年轻得多，而且平易近人，言谈举止都透着艺术的风采。她和蔼可亲地询问了我们在日本生活和工作的情况，对我们“在日华人女性交流会”的情况和感兴趣，并给予了赞扬。她希望我们能团结更多的华人女性，共同努力，还祝我们大家家庭和睦，生活美满，身体健康，旅日生活更加幸福，工作也取得更大的进步。



简短的交谈把我们和这位著名艺术家的距离一下子拉得很近。如同和师长，朋友在交谈一样，我想这种机会在中国可能更难得到吧，与会的各位可能都有同感吧。



“啊，亲爱的朋友们，让我们共同举起杯，挺胸膛，笑扬眉，胜利属于八十年代的新一辈”。二十年前古建芬老师就给我们描画出一幅美好的蓝图，二十年后，我们这一辈有的已经实现了自己的梦想，有的正在努力地实现梦想。我们这一代人确实实是了不起的一代人，各种经历注定了我们这一代回挑起时代的重任。让我们共勉吧！

文·写真提供 黄蔚

活動スケジュール予定

2007

- | | |
|---------|--|
| 03月21日 | 第一回活動
在日華人子女教育研究会 |
| 06月 予定案 | 第二回活動
野外活動：千葉市稲毛海岸周辺 |
| 08月 予定案 | 第三回活動（詳しくは7月会のHPお知らせで確認）
中華街の先輩華僑に訪ねて |
| 10月14日 | 第四回活動
戸塚地区福祉見本市への参加 |

撑起一片女人的天空 ——记在日华人女性交流会的创立者们

《中文导报》记者 李春雁

在日本的华人世界里，有一个专门的女性交流的园地，这就是在日华人女性交流会。它不张扬重实干，细腻而亲切的行事风格不仅深受会员的拥戴，也受到了很多男性旁观者的敬佩和赞扬。一位参加过在日华人女性交流会的一次活动的男士对记者直言，“我以前参加过很多华人团体的活动，但那次陪老婆孩子参加在日华人女性交流会的活动，感觉真的太好了。孩子们在一起玩着我们童年时的踢毽子、跳沙包、弹玻璃球等游戏，大人们在一旁交流着关于孩子教育的信息、心得及在日的工作情报等等，轻松愉快。“就感觉他们的活动办的朴实、实在，有人情味，有女人味。”最后这位男士总结。

那么在日华人女性交流会究竟是一个什么样的团体呢？听了这位男士的介绍，记者带着这个疑问采访了在日华人女性交流会会长姜春姬女士。姜女士介绍，在日华人女性交流会的创立还有一个曲折的过程。

姜春姬、李艺、庄严三位都是在国内大学毕业，相继来到日本留学的同代人，在日本相识后各奔东西。10多年以后他们再度相见时，大家都有很多话要说，尤其是在日本的生活，如只身在日本公司工作，与日本同事融洽、客气但又有一种文化上的距离感的内心深处的孤寂，在日生活、育儿独自在陌生的环境中摸索时对相关资讯的需求，忙于育儿家务又缺少父母辈的帮助自力挣扎后的体会，和在日本生活中得到的教训和经验的积累，于是共同产生了要聚在一起，互相交流，为后来者做些有益的事的念头。然而由于住的距离远，每天忙于上班、家务、孩子等等，大家见一次面并不容易。开始她们组织了一个英文学习班，请一位曾是国内大学的英语教师，每个周日一边教英语，一边进行交流。后来虽然因老师回国，英文班不能坚持了，但她们认识到，在日华人女性中有很多人和她们一样，大家都有一个渴望交流，渴望融入社会，渴望为他人做点事的愿望，如把自己在生活中的某些经验告诉别人，让别的华人少走弯路等。她们就想不定期的聚会一次，可聚会的场所又成了问题，总不能总在家里，于是她们试着去借公民馆，但被告知，利用公民馆不能以个人名义，要以团体的名义。这句话让她们茅塞顿开，她们开始酝酿成立团体了。

2003年一年他们都在筹备团体的成立，因为都在工作，又都有孩子，所以筹备工作只能抽空进行，先是起草章程、规定细则、以后的活动方式、活动时间等等，问题虽小，但细节很多工作琐碎而量大，很快2004年年初，在日华人女性交流会正式成立，在成立大会上正式会员12人，通过了协会章程等，并选举姜春姬为会长、李艺为会刊的编辑长，庄严为事务局长，并规定每3个月举办一次活动，并发行会刊。

以后每年都举办各式各样的活动，如聘请知名的学者、女性问题专家举办讲座、聘请专门认识进行子女教育相談、举办法律知识讲座，与老华侨女性团体，在日新华侨个团体及国内的妇联团体的交流等，同时还为孩子们举办各种游戏活动，把中国的一些游戏教给孩子。从2005年起，她们还每年都参加新宿区的志愿者活动，填补了外国志愿者中独缺中国人的空白，受到了新宿区长的好评。在不断的活动中她们的知名度越来越高，活动也受到了华人女性的欢迎，现在在日华人女性交流会已逐步成长起来，有正式会员近40多人，登陆会员100多人。

多做实事，稳健发展，日中间广泛交流，不去做高调宣传，是她们遵循的原则。这个团体正受到有共同经历，有共同想法的在日中国人女性的瞩目。

此文章转载于5月30日发刊的《中文导报》

脳卒中予防10か条

金 紅蓮

健康ナビ

死の四重奏と言われる高血圧、高脂血病、糖尿病、肥満はどれをとっても動脈硬化につながる可能性があります。その根本となっているのは、食事を基軸とする生活習慣です。最初からめんどろではなく、できることから少しずつ始めてみましょう。

- 1 自分の血圧を知る**
血圧は基礎疾患の管理につながるので、日頃から意識して血圧をチェックし、自身の平均血圧を把握するよう心がけましょう。
- 2 急激な温度変化を避ける**
寒い時期の発症率は、暑い時期の1.5倍にあります。暖かい場所から急激に寒いところへ移動すると、心臓の負担になるか、または血圧が急上昇し脳卒中を引き起こす場合があるからです。
- 3 ストレスをため込まない**
嫌な物事に直面した時、人間は本能的に逃げるか、もしくは戦うかを判断します。そのとき脈拍が速くなり、血管が収縮して血圧が上昇します。
- 4 過労・睡眠不足を避ける**
- 5 トイレに注意を**
排便時の「りきみ」で血圧が上昇します。特にクモ膜下出血の20%は用便中に起きています。
- 6 バランスの良い食生活を**
塩分は腎臓から排泄されますが、過剰に摂取すると血液中のナトリウムの濃度が上がります。するとその濃度を下げようと血液中に水分が増えて血液量が多くなり、血圧が高くなります。現在、わたしたちは1約15gの食塩をとっていますが、実際は10 g程度、高血圧の人は7gが理想です。以下を参考にしてください。

こいくち醤油（大さじ1）	2、6g	塩鮭醤油（大さじ1）	1、1g
うすくち醤油（大さじ1）	2、9g	梅干醤油（大さじ1）	3、3g
みそ（大さじ1）	2.0g	カップめん大さじ1）	5、0g
- 7 お酒はほどほどに**
お酒は適当な量であれば血圧を下げ、動脈硬化を防ぐ効果があるといわれますが、逆に飲みすぎると様々は病気を誘発します。アルコールの適当な量は約20gで、種類で換算すると以下ようになります。

ビール	中ビン1本（500ml）	ワイン	グラス2杯（一杯120ml）
日本酒	一合（180ml）	焼酎	1、2合（90ml）
- 8 タバコは百害あって一利なし**
- 9 適当な運動をする**
- 10 健康診断を利用**

* 近所発見 **

2007年4月

* 近所発見 *



珍しい花を紹介しましょう。

この花は、中国南方の「金花茶」という椿（ツバキ）の仲間です。この黄色いツバキは日本には自生していません。私の家の近くに「神代植物園」があって、そこの温室で咲いていました。

文・写真提供 土肥哲英 さん

当你的孩子遭遇“欺侮”

庄 严

2006年秋季的日本，一系列因遭遇校园欺侮而自杀的事件，再次引起了社会对“欺侮”问题的关注。可能有些朋友会不解同学之间的欺侮，不过是孩子之间的小打小闹而已，怎么会至于自杀呢？是不是被欺侮的孩子自身有什么问题呢？要搞清这个问题，就得看看日本的同学之间的欺侮问题的一些特征。

通常我们所理解的欺侮，一般指把痛苦强加给比自己弱的人。而翻开日本的词典，我们则发现，它还特指在学校故意在肉体上或精神上攻击比自己弱的同学。今年1月，文部科学省专门为校园内外的青少年中存在的欺侮问题下了新的定义，去掉了以往的“单方面的”、“持续性的”、“深刻的”等修饰语，称“青少年从具有一定关系的人那儿受到心理上或物理性的攻击，并由此感到精神上的痛苦”时，可以定性为受到了欺侮。根据这个新定义，可以确定为欺侮事件的范围进一步扩大了。

根据众多的实例资料，对于起头挑起欺侮的孩子来说，选择欺侮谁，并没有什么特殊的理由，多是因偶尔的因素“看”上了被欺侮的对象。可以说，任何孩子都有可能成为被欺侮的对象。就像交通事故一样。对于很多参与欺侮同学的孩子来说，他们也没有什么特别的理由，只是因为，如果不参与欺侮，自己就会成为被欺侮的对象。也就是说，参与欺侮是一种自卫措施。因此，日本校园的欺侮问题，通常不是一个同学欺侮另一个同学，也不单是几个同学欺侮一个同学，而往往是一整个班的同学——除了被欺侮的以外——欺侮一个同学，使他／走投无路，如果是一个自尊心强的或心灵敏感的孩子，就难免被逼至死。

尽管如此，在“枪打出头鸟”的日本，如果某个孩子在某一个方面与众不同，比如，穿戴不一样，有较强的个性，甚至身体上有什么缺陷等等，就更容易成为被欺侮的对象。作为在日华人，我们处处都有着和当地人不一样的东西，语言、习惯、姓名、家庭背景等等，所以，有必要更加留意自己的孩子是否成为被欺侮的对象，如果有什么征兆的话，要及时和孩子沟通，帮助孩子克服困难。

年纪小一些的孩子，在遇到同学的欺侮后，一般会向家长或老师求助，这个时候，一定要注意倾听孩子的诉说，不要简单地把事情淡化为普通的小孩子间的闹别。根据情况及时向班主任反映情况。并让孩子知道，父母永远站在自己一边，天塌下来有父母撑着，用不着怕谁。如果班主任不认真对待或解决不力，要立即向学校反映，不行的话再向当地教委、文部科学省一层层上诉。一般来说低年纪的孩子，通过老师的教育和调解，比较容易解决。

而小学高年级到高中的孩子遇到欺侮，就不是那么容易解决了。被欺侮的孩子有一定的自尊心，不轻易向父母和老师诉说，而参与欺侮的孩子也使用更加隐蔽、阴暗的手段，大人很难察觉。因此，如果家长觉得孩子和平常有什么哪怕是不明显的异常时，应该更进一步留心对孩子“察颜观色”，如果发现蛛丝马迹，根据具体情况，可以引导孩子说出真相，也可以跟学校反映，请老师配合，留意观察同学之间的情况。

来自群体的欺侮，对孩子的心灵和性格造成的伤害是无法估计的，作为父母，我们有责任全力保护孩子的身心不受伤害。为了能及时了解情况，解决问题，平时就要多和孩子交流，特别是就同学间的欺侮问题进行沟通，使孩子知道，被欺侮并不是什么可耻的事儿，更不是什么走投无路的事儿，世界很大，天地很长，好人很多。

当然，在防范或解决自己的孩子被欺侮的同时，也要教育孩子不可以挑头或参与欺侮别人。中国人传统上最痛恨欺软怕硬，而且有句老话“己所不欲，勿施于人”，我想不必在此多言了。



小遣いについて



「小遣いとは何だろう？」とゆっくり考えるゆとりもないままに、子供から、「私には小遣いはないの？」「いくらくれるの？」「周りの友だちは皆もらっているよ。」と言われてしまう親が多いのではないのでしょうか。

子育ての段階において、このような経験は誰にでもあるのではないかと思います。この問題について、周囲の親たちはどのように子供の小遣いに対応しているのでしょうか。そこで、今回は会の活動の一環として、資料を調べたり、いろいろな人に聞いた話などを整理してみました。

小遣いといっても、各家庭のそれぞれに、それぞれのやり方があるようです。今回の調査結果が、皆さんの今後の参考になればと思います。

まず、小遣いを子供にあげる家とあげない家とに分かれております。どちらにしてもそれなりの理由があるようです。

それでは、小遣いをあげる家の事情を見てみましょう。

一 小遣いはいつからあげるのでしょうか？

- 最年少では3歳からの例があります。週150円くらいで、仕事を与えます。仕事内容は、食後に新聞を持ってきたり、食器運びや片付けを手伝ったり、また、金魚に餌をあげることや近所へのお使いなどです。まず仕事をさせ、自分のためだけではなく、他人のためになることを覚えさせるためだそうです。
- 5歳からの子もいます。手伝いの仕事を与え、それを目標にして手伝わせる。毎月の手伝いメニューを作るとよいとのこと。
- 小学生になると計算ができるようになるので、自己申告で管理帳をつけさせる。自分でお金を使うことは、自分で管理することだと教えるのが目的だそうです。

小学校3年生の場合、月500円にする家庭もあります。小遣帳に記入してきちんと計算させ、使う時は、母親が検査して出費と実際が合っているかをチェックし、合わなければその月の小遣いは渡さない。自分が使える範囲内の経済感覚を養うことができるので、大人に甘えるのがなくなるとのことです。また、小遣いをもらった時には、素直にお礼が言えるようになった事例もあるようです。

小遣いをいくらあげるかは別として、あげる理由には、親としてのいろいろな期待感もあるようです。その多くは、金銭感覚や社会性を養い、労働して得た金額の喜びを覚えさせるために、また、仕事を通して得られる達成感を覚えさせ、さらには、買い物で失敗することも味わわせるためなどと、いろいろな親の思いが見られます。

小遣いの使い道を見ると文具や辞書が多く、高額なものは親が買ってやりますが、基本的には、自由に使ったり貯金させたりする例が多いようです。

一 それでは小遣いは月払い、または、週払いでしょうか？

週払いが多いようです。子供は計画性に乏しく、一度に大金を手にとるとすぐ使ってしまうことが多いので、週払いにするのだそうです。高学年になると、小遣い額も上がって3千円から5千円くらいになり、高校生の場合は1万円になる例も少なくないようです。

一 評価

小遣いを設定する前と設定した後とを比べてみると、小遣い設定後の方が、設定前より節約するようになるとのこと。今までは何となくとか、本日は特別な日だとか、また、騒ぐから仕方がないと思って与えていたお金が多かったようです。

しかし、何かほしいものがあつた時には、自分の小遣いを使って購入すれば子供なりに納得できる場合も多いし、金額的にも一時的に大金を使うことがなくなるので、親の負担も軽く、小遣いを与えておくということは、案外、合理的なことなのかも知れません。

一 小遣いに対する反対意見

家では小遣いをあげていないとの考え方にも、それなりに一理あるようです。

その言い分は、

- ◎不必要なお金を管理能力もない子供に持たせるのはよくない。また、お金の価値も分からない子供に理由なくあげるのは好ましくない。
- ◎定額の小遣いはあげていないが、家の手伝いをしたらアルバイト代をあげる。
- ◎高校生でも毎月の携帯の定額しか与えない。
- ◎基本的に小遣いは与えない。不定期に小額のお金をあげているが、それを貯金箱に入れておいて、必要に応じて自分で好きなものを買う程度でよい。
- ◎子供が要求してこなければ、進んであげなくてもよい。また学校によっては友だち同士がおごり合うのは禁止なので、必要のないお金は持たせないとの例もあった。

小遣いについては、それぞれの家でのいろいろなやり方があるようです。どちらにしても、親の子供への成長を願う気持ちが大事であることが十分に理解できました。さて、子供たちは、このような親の思いをどう受け止めてくれるのでしょうか。

姜 整理

反抗期的交流

孩子一天天成长了，在喜悦的反面是苦恼，忧愁？我也说不清楚。朋友们大概也正在体会着吧。进入高中以后，孩子变了个人，每天话少，非说不可的时候也是简短的几句，我们之间的交流和沟通越来越少，脾气可是渐大，让人不知所措，家里的气氛也紧张。我们很苦恼，不知这是为什么，那么可爱的孩子怎么一下子变成小恶魔了呢？请教了老师和朋友，以及同年龄的孩子的父母，发现这是个比较普遍的现象，并称之为[反抗期]。

反抗期是孩子成长过程中从心理到生理发生变化的时期，也是从孩子向大人转变的重要时期。青春期的孩子容易产生情绪化行为，但又不能像成年人那样加以抑制，所以暴言暴力行为时有发生。我们在他们这个年龄时也有这样的行为，不过由于环境不同，我们在学校，在玩耍中大部分已发散出去，并且不太被大人们重视，而现在少子化，核家庭，孩子们生活的空间变小了，他们每天在家长的眼皮底下转，这些情绪当然全部在家长面前发散出来。

了解了这些情况，我们也调整了自己的心态，把孩子当成朋友来对待，不说教，不命令他干这干那，不是太过分的举动不跟他计较，在他情绪激动时不和他理论，不刺激他，而是在过后耐心地劝导，启发式地和他讨论，这时他也表示当时不知为什么会那样对待父母，想不发脾气可是控制不住，自己也很歉疚。

青少年期间是人生的转换时期。从孩子这个被动体转变为主动体，他们有了对独立人格的要求。你的话一定要听吗？你的全对吗？他在思考，判断。此时如果坚持要他干什么，他就反感，从而引发出强烈的反抗意识。这说明他在成长，这不是件令人高兴的事情吗？后来我们总结出，没有用的话不说，应该做必须做的事，从正反，利害两方面给他讲清楚，由他自己做出决定。这样一来我们发现其实他还是有判断能力的，他所做所为正是我们想让他做的，这个方法比强行要求更容易使他接受，我们不用面面俱到，而是帮他把握住方向就行了。现在孩子已成人了，更要把他当作一个大人来对待，有事商量解决的办法，有错误提出来，他自己会改，狂风暴雨已不再，雨过天晴了。

以上是我个人的一些体会和想法，也许大家还有更佳的方法和体会，让我们共同探讨吧。每个孩子的性格，脾气是不同的。相同的是他们都有深爱着他们的父母亲，这点他们很清楚，只要有足够的爱心，耐心和包容心，他们总有一天会体会到，并且会感谢他们的父母。这一点我们这一代人已经得到验证了，不是吗？「不养儿不知父母恩」，我们是千真万确地体会到了，他们也会的，因为他们是我们的孩子。

黄蔚 2007.04.13



いつか、また
まっちゃんの雪化
粧のしている姿を
カメラにおさめた
いですね。

近年来いろんな異常気象現象で悩まされる人類。裕福な生活の中で贅沢を覚えた人々は、地球の悲鳴を感じ始めた。いまからは遅いか遅くないか、私には分かりませんが、自らはできることをやるという使命感を強く感じています。

先日北京の実家とネットチャットした。私は寒くて長袖だったが、ウェブカメラの向こうにいる両親は暑くて半袖でした。遠く離れていないのに、東京は前日より8℃も低い19℃で、北京は日中37℃という高温でした。真夏日になったら、両親はどう過ごすか、思わず心配になりました。

写真の主人公は、うちの近くに住んでいるまっちゃん。まっちゃんという名前は私が勝手につけていました(笑)。今頃は、つつじ満開の「花鞋」で足元を飾り、ぼっちゃりな体で愛嬌たっぷりです。本当は、まっちゃんの四季を撮りたかったが、去年暖冬で東京には雪が降りませんでした。



文・写真提供：Joana

一年一度的春节又到了。每逢佳节倍思亲，特别是远在异国他乡的我们，那份思念之情就更加深刻，梦里萦怀，望眼欲穿。可是，我们有几个能够像自己小的时候一样正正经经地在这里过一个年？可以说每年的春节在我们这儿已经没有什么年味了。我们的下一代就更加如此，春节恐怕只剩得成了一个符号，想想令人心里不好受。

小时候过年，那记忆是十分美好的。我上小学的时候家里很穷，只有到过年时才有新衣服穿。也只有过年时才能真真正正放开肚皮吃好的。所以每到年关前，在灶王爷牌位前烧完了香，在他嘴上抹满蜜糖，让他“上天言好事，下界降吉祥”后，家家户户门口就点上了灯笼、贴上了对联，年味就朦胧在那个小小村庄里了。像乡下其他的孩子一样，我的心也就慢慢地变得不安分，从东家串到西家，念了一幅又一幅，几百家的一个小村庄，那对联几乎都能背下来。在那个大革命的年代，对联也有着深深的时代的烙印。像“春风杨柳万千条，六亿神州尽舜尧”，是来自毛主席的诗句。“横眉冷对千夫指，俯首甘为孺子牛”，是鲁迅集旧诗自勉的名对。与这些充满革命气息的对联相比，每家的灯笼上写的那些谜语，则多

少保留了一些所谓的四旧的东西，也正是它们不止一次地拉住了我的脚步。另外，每家的谜语还是门第家风的反映，所以那些自认为是读书人家的门口总是会有个很大的灯笼，上面写满了谜语供欣赏。大年初一去拜年，猜对了还可以得到一些奖赏。只是那个时候大家都不富裕，没有压岁钱。不过每家还是会把大量的瓜子、干果、糖块放在大簸箕里赏给来拜年的小孩子们吃。猜着谜语的就可以多抓几把了。谜语大多通俗易懂猜，很少有太难的。像“虫入凤窝飞去鸟，七人头上长青草，大雨落在横山上，半个朋友不见了。”大部分孩子都能猜得上来，那家也就成筐成筐地把那些干果瓜子往簸箕里倒。而我们，口袋里装满了，就先回家倒出来再去另一家。也有一些文里文气的，大伙儿一起猜着了，拿一个大口袋到他家里见到年货就装。有一个谜语模仿武侠小说里的山贼：“我家住在小河边，上管行人下管船。天王老子从此过，也会留下五分钱。”不知为什么到现在还能记得这样清楚。

过了初一，就是走亲戚、待客。三、六、九祭财神，初五送五穷，十二老鼠娶媳妇，十五观灯，二十五祭仓官，直到二月二龙抬头，河也开了，柳也绿了，

才算是过完了年。随着布谷声声，起早贪黑的日子又开始了，我们又在憧憬下一个春节。一直到我离开那个小村庄，这样的情景都没有多少改变。几十年过去了，尽管家乡的习俗已经不知变了多少，在我的印象里，儿时的景象仍然是历历在目。

丙戌年在国人的眼里是一个好年份。年前立春，又闰七月，这样的年份在中国农历上要几百甚至上千年才有一次。所以去年国内结婚的特别多。想想也是，好不容易遇上这样一个好时候，就算是有点犹豫还是结了算了，说不定会有什么好的因缘。在北宋神宗年间，也有这样一个特别的年。那一年是闰八月。当时是名相王安石当政，推行新法。这位王荆公不仅在政治上大有作为，还是以文字千锤百炼流传至今的唐宋八大家之一。像“春风又绿江南岸”，不用我赘述，是尽人皆知的。而同时代的一位著名的大文学

家苏东坡，在政治上则是保守势力的代表，和后来命相的司马光同穿一条裤子。而且据说这位大诗人在治学上也不太严谨，王安石就以当年的节气为题出了一个上联难了难苏东坡：“一年二春双八月，人间度春秋。”苏东坡天资高妙，又素以才思敏捷，善于对对称名于世，可是怎么也对不上来。后来也没有

听说有过什么好对，因为上联把能用的单双数都用完了，实在不容易对的工整，这副对子还有这段佳话也就成了千古绝唱。狗年伊始，我曾经勉强想出一个下联：“南辰北斗几多星，天上无穷岁月。”蹩脚地狠，不能不佩服王安石的博学。

大学毕业的时候，有同学以“十年寒窗苦”求对，结果是谁也答不上来。直到现在，它还时时困扰着我，没有一个好的答案。以前在杂志上曾经看到这样一联：“十年寒窗苦难尽，一朝成名天下闻。”也没有得到任何启发。因为这本身也不能算一个好对，更别提解决我十年寒窗苦的问题了。

丁亥年就要到来，国内到处在卖发财猪的吉祥物。在日本许多人则认为亥年总会有大的事件特别是政治事件发生。因为在日本猪年不是猪年，而是野猪年。野猪是猪突猛进、勇往直前，不免会有一些剧烈的碰撞，那么有些突发事件就在所难免了。不过，不论是猪年还是野猪年，我都希望今年是一个和祥温馨的年。所以我愿意在这里祝愿那些能看到和不能看到这篇小文的同胞们新年愉快，多福如意。

丙戌年腊月，东京



在日華人女性交流会 サッカーチーム募集と案内



緑も鮮やかな季節になりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

さて、この度、法政大学社会学部教授田嶋淳子先生のお誘いを頂きまして、来る2007年7月29日、横浜市開催予定のNO BORDER! Cup 2007多文化共生のための少年少女フットサル大会に参加させていただくことになりました。

田嶋先生との交流は、去年【在日外国人地域ボランティア・ネットワーク】に当会で参加したことがきっかけです。

今回の主催側は、在日外国人地域ボランティア・ネットワーク、運営はみんなで輪一どかつぶ実行委員会、後援には横浜サッカー協会、トヨタ財団と講談社「ゲキサカ」です。

【大会概要】

《日時》 2007年7月29日（日）

開会式 11:00～

閉会式 16:00（予定）

閉会后、交流会をクラブハウスで予定しています

《当日スケジュール》

受付開始 10:30

開会式 11:00

第1試合 11:30～11:50

第2試合 12:05～12:25

—休憩30分—

第3試合 12:55～13:15

第4試合 13:30～13:50

第5試合 14:05～14:25

試合終了後 エキジビジョンマッチ（約1時間）コート 終了予定 16:00

交流会（@クラブハウス 含閉会式）

10ヶ国以上の在日外国人の方々が参加する中、当会では、初めての競技体験になるのですが、皆さんに、身近なところで、国際交流、多文化交流を是非体験してみようと、呼びかけを致します。

参加するためには、まずサッカーチームの結成が必要になります、今回は、小学生世代の子どもたち12チームによるフットサル大会だそうです、まったく遊んだこともない人にも、最初からご親切に教えてくださるそうです。小学校に通うお子さん、お嬢さんいらっしゃる家庭では、是非ご検討宜しくお願い致します。

つきましては、ACWJでの中国チーム募集内容をお知らせいたします。

《ACWJ中国チーム募集内容》

- 1、12歳以下小学生、男女不問（人数制限なし）
- 2、サッカー経験無し可
- 3、参加費無料
- 4、試合前練習あり（練習時間、場所未定、ACWJ連絡係より随時連絡）
- 5、保険：6月20日まで参加応募者には、大会でリクリエーション方式の保険をかける予定
- 6、ユニホームは、全員に白いTシャツと、背番号の入ったチョッキ型のもの（これをビブスと呼ぶそうです）を大会で用意。ビブスと足あてがない選手には大会で用意します。ただし、運動靴とハイソックスはご自身で用意。
- 7、7月29日大会への参加者には交通費は大会で用意します。ただし、お昼だけはお弁当を持参して頂くことになります。
- 8、**応募締め切り：6月20日まで**
- 9、応募方法：ACWJメール：acwj03@hotmail.com
携帯：姜090-2469-0357；黄080-3436-6559



温家宝首相演説全文 国会演説

2007年4月12日午後2時00分

温家宝・中国首相が12日行った国会演説の全文は次の通り。

尊敬する河野洋平議長閣下

尊敬する扇千景議長閣下

国会議員の諸先生方

本日は、貴国の国会において演説をさせていただき、衆参両院の議員の諸先生方とお会いする機会を得ましたことを大変うれしく思います。まずはご在席の先生方をはじめ、日本国民の皆さまに対し心から祝福を申し上げ、長期にわたって中日友好のために貴重な貢献をしてこられた日本各界の友人の皆さまに対し、心から感謝を申し上げますとともに、崇高なる敬意を表します。

今回は私の貴国に対する2回目の訪問であります。前回は15年前、同じく桜満開の4月でした。中国人民に対する日本国民の友好的な感情が深く印象に残りました。このたびの貴国訪問は、日本の最新の発展ぶりを見るためであり、さらには、中日関係の改善と発展のために力を尽くし、貢献したいためであります。昨年10月の安倍総理大臣の中国訪問は氷を割る旅であったと言うならば、私の今回の訪問は氷を溶かす旅となるよう願っております。私は友情と協力のために貴国に来ました。これがまさに私のこのたびの日本訪問の目的であり、本日の演説のテーマでもあります。

友情と協力のために、長い中日友好の歴史の伝統を受け継ぎ、発揚する必要があります。2000年あまりにわたる往来の中で、中華民族と日本民族は学び合い、お互いの経験を参考にして、それぞれ発展し進歩してきました。

秦と漢の時代から、稲作、桑植、養蚕、紡績、製錬などの生産技術が相次いで中国から日本に伝わり、漢字、儒学、仏教、律令制度と芸術なども日本に吸収され、参考にされました。日本は10数回にわたって遣唐使を派遣しました。阿倍仲麻呂はその中のすぐれた代表者の一人です。阿倍仲麻呂は中国で数十年間暮らし、唐王朝の要職につき、王維、李白など著名な詩人たちと親交を深めました。鑑真和上は日本へ渡航するため、5回も失敗した末、両眼が失明しました。それでも、和上は志を変えることはありませんでした。6回目に渡航を成し遂げたときはすでに66歳の高齢になりました。鑑真和上は衆生済度の仏法を日本に伝え、長年の宿願を果たすために、通算12年間もの歳月を費やしました。鑑真和上は中日両国人民の友情を増進するために自分のすべてをさげられました。昨年12月、河野洋平議長は中国文化祭の開幕式において、「日本文化の伝統に中国文化の薫りが漂っていることは、日中の間に切っても切れない縁があることの表れである」とおっしゃいました。わたしが申し上げたいのは、中国の文化が日本に伝わって、貴国の先人たちが日本の伝統的文化を保ちつつも新たに創造を加え、大いに発展をさせました。そして、明治維新以降、日本の経済社会が急速に発展を遂げた時に、中国から大勢の青年が日本に来て、近代的な科学技術と民主的な思想を学び、中華民族を振興させる道を模索し、中国の発展と進歩を促進しました。中国民主主義革命の先駆者である孫文先生の革命活動は、多くの日本の友人から支持と支援を受けました。周恩来先生、魯迅先生、郭沫若先生等の先達も日本で留学生活を送り、日本国民と深い友情を結びました。

中日両国の友好往来は、その時間の長さ、規模の大きさと影響の深さは、世界文明発展の歴史に類を見ないものであると言えます。これはわれわれが共有している歴史の伝統と文明の財産であり、いっそう大切に、子々孫々にわたって伝え、大いに発揚するに値するものであります。

友情と協力のために、不幸な歳月の歴史的教訓を総括し銘記する必要があります。周知のように、中日両国人民の2000年以上にわたる友好往来は、近代において50年余りの痛ましい不幸な歴史によって断たれたことがあります。当時の日本が発動した中国侵略戦争によって、中国人民は重大な災難に見舞われ、おびただしい死傷者を出し、多大な損害を被り、中国人民の心に言葉では言い表せないほどの傷と苦痛を残しました。また、あの戦争は日本国民にも莫大な苦難と痛みを与えたことは、年配の方々には今なお記憶に新しいでしょう。歴史を考えると、われわれは次のような示唆を得ることができます。中日両国の平和と友好は両国の運命と国民の幸福にかかわるものであります。1つの国家、1つの民族にとって、歴史の発展のプロセスにおいて、プラスの経験も、マイナスの教訓も、いずれも貴重な財産であります。自らの歴史の経験と教訓から学ぶほうが、より直接に、より深く、より効果的にそれを得ることができます。これは1つの民族が奥深い文化的伝統を有し、自国の明るい将来に自信に満ちている表れです。中国の古い世代の指導者がかつて度重ねて指摘したように、あの侵略戦争の責任は、ごく少数の軍国主義者が負うべきであり、一般の日本国民も戦争の被害者であり、中国人民は日本国民と仲良く付き合わなければなりません。戦火が飛び散っていたなかで、聶榮臻元帥は戦場で日本人の孤児（柊）美穂子さんを救助し、自ら世話をし、そして手を尽くして彼女を家族の元に送りました。1980年、美穂子さんは家族とともに中国へ行って聶榮臻元帥を訪ねました。この話に多くの人々が心を打たれました。戦後、2808人の日本人の子供たちが中国に置き去りにされ、残留孤児となりました。戦争の苦痛をなめ尽くした中国人が彼らを引き取って、彼らを死の危機から救い出し、育てあげました。中日国交正常化の後、中国政府は孤児たちの肉親捜しに大きな支援を与えました。現在までにすでに2513人の日本人孤児が日本に戻りました。彼らの多くは帰国後に、「中国養父母謝恩会」などのような民間団体を自発的に設立し、中国で養父母たちの共同墓地と「中国養父母感謝の碑」を寄付・建立しました。その中に次のような碑文が書かれています。「中国養父母の人道的精神と慈愛心に深く感謝し、ご恩を永遠に忘れません」と。

ここに、私はもう1つの事に触れたいと思います。中国北部の港町コロ島は、かつて中国を侵略した日本軍の石油運送地でした。昔の石油貯蔵タンクの傍らにそびえ立つ石碑に、戦争が終わって間もないころ、交通が不便で物資が極度に乏しかった状況の下で、中国人民が全力を尽くして残留日本人105万人を無事に帰国の途につかせた歴史的な一幕が記されています。当時コロ島から帰国したある日本人女性は、感情を込めて自ら経験したことを次のように振り返っています。1200人あまりの日本人少年が石頭村の寒い夜に助けられ、また引き上げ途中でいろいろと救済されたことはもちろん、東寧県の農民に救命の食べ物とコロ島で手に入れたただ1個の甘酸っぱいミカンも、私に深い印象が残り、今でも生々しくて忘れられません。これは善良、寛容な中国人が私たちの落胆した心を慰め、おかげさまでとうとう帰国の船に乗りました。去年の6月、貴国の村山富市元首相はコロ島で行われた記念イベントに出席した際に、「大送還は、まさに中華民族の大きな度量と中国人民の人道主義精神の表れである」と言われました。

中国政府と人民は従来、未来志向を堅持し、一貫して歴史をかがみとして、未来に向かうことを主張しています。歴史をかがみとすることを強調するのは、恨みを抱え続けるのではなく、歴史の教訓を銘記して、よりよい未来を切り開いていくためであります。中日国交正常化以来、日本政府と日本の指導者は何回も歴史問題について態度を表明し、侵略を公に認め、そして被害国に対して深い反省とおわびを表明しました。これを、中国政府と人民は積極的に評価しています。日本側が態度の表明と約束を実際の行動で示されることを心から希望しています。中日両国は和すれば双方に利益をもたらし、争いあえばともに傷つきます。両国人民の子々孫々にわたる友好を実現することは、歴史の流れと両国人民の願いに完全に合致し、アジアと国際社会の切実な期待でもあります。

友情と協力のために、中日関係の発展の方向を正しく把握する必要があります。今年は中日国交正常化35周年にあたります。中日双方の共同の努力をへて、中日関係は大きな発展を遂げてきました。2006年、両国の貿易額は国交正常化当時の11億ドルから2073億ドルに増え、友好姉妹都市は233組に達し、人的往来は480万人を超えました。中日友好関係の発展は、両国人民に確実な利益をもたらしました。中国の改革開放と近代化建設は日本政府と国民から支持と支援をいただきました。これを中国人民はいつまでも忘れません。

新しい歴史的条件下で、中日両国は日増しに増えつつある共通利益を有し、ともに対応すべき重要な課題に直面しています。このような客観的な事実に基づいて、両国の指導者は戦略的互惠関係の構築について合意しました。われわれの目標は、時代の流れと民意に従って、中日関係を新たな歴史的段階に推し進め、平和共存、世代友好、互惠協力、共同发展を実現することです。この目標を実現するために、以下の原則を把握する必要があります。

第1は、相互信頼を増進し、約束を履行することです。中国古代の先賢は、「国人と交わりては、信に止まり」（国や人との付き合いは、信用を守ることが大事である）「朋友と交わりて、言ひて信あり」（友達との付き合いは、有言実行が大事である）と言われました。日本の方々もよく「信無くば立たず」を口にします。国と国との往来はなおさら誠実と信義を本とすべきです。「中日共同声明」など3つの政治的文書は、政治、法律そして事実の面から両国関係の過去を総括し、両国関係の未来を計画したものであり、中日関係の礎であります。いかなる状況におかれようと、双方がこの3つの政治的文書に定められた諸原則を厳守しさえすれば、両国関係は順調に前進することができます。台湾問題は中国の核心的利益にかかわるものですので、少し触れたいと思います。私たちは台湾問題の平和的解決をめざして最大限の努力を尽くしてまいります。しかし、「台湾独立」を絶対に容認しません。台湾当局による「台湾の法的独立」および他のいかなる形の分裂活動にも断固として反対します。日本側には台湾問題の高度な敏感性を認識し、約束を厳守し、この問題に慎重に対処するよう希望します。

第2は、大局を念頭に置いて、小異を残し大同につくことです。中日両国の間には一部の具体的な利益と一部の問題に関する見解に意見の相違があることは認めなければなりません。しかし、双方の共通利益と比べれば、これは到底副次的なものであります。われわれは戦略的大所高所から、長期的視点に立って、そして歴史に対し責任ある態度で、誠意と自信を持って、対話と協議を行いさえすれば、双方の間に横たわる問題を適切に解決する方法を必ず見いだすことができます。東海（東シナ海）の問題については、両国は係争を棚上げし、共同開発する原則にのっとり、協議のプロセスを積極的に推進し、相違点の平和的解決のため実質的なステップを踏み出して、東海を平和・友好・協力の海にすべきです。

第3は、平等互惠、共同发展を目指すことです。中日両国の経済は強い相互補完関係にあり、協力の潜在力が大きく、その将来性も広々としたものです。長年の努力と積み重ねを経て、両国経済の相互依存度はますます高まりつつあります。中日両国の経済面での協力は互惠とウィンウィンの関係にあり、両国経済の発展は、双方のいずれにとっても脅威ではなくチャンスです。昨日私と安倍総理大臣は会談において、中日ハイレベル経済対話メカニズムを設立し、両国の経済面での協力をより高いレベルへ引き上げていくことで一致しました。双方は当面の間、まず、エネルギー、環境保護、金融、ハイテク、情報通信、知的財産権などの分野において協力を強化すべきです。

第4は、未来に目を向け、交流を強化することです。経済面での協力と文化交流は、国と国とを結ぶ2本の重要なきずなです。経済面での協力の目標は互惠とウィンウィンの実現にあると言うならば、文化交流の目的は心と心をつなぐことにあると言えます。両国の指導者はすでに、文化交流と人的往来を強化することで意見の一致を見ました。青少年は国家の未来と希望であり、中日友好の未来と希望でもあります。中国側は日本側とともに、両国青少年の大規模な交流プログラムを企画・実施し、両国人民の子々孫々にわたる友好のために希望の種をまきたいと思います。

第5は、協議を密接にし、挑戦に立ち向かうことです。

中日両国はいずれもアジアと世界における重要な国です。中日関係のあり方は、地域ひいては全世界に重要な影響を及ぼします。われわれはこのような視点に立って、協調と協力を強化し、ともに北東アジアの平和と安定を維持し、東アジアの地域協力のプロセスを推進して、アジアの振興に取り組む必要があります。また、同じ視点に立って、エネルギーの安全、環境保護、気候変動、疾病の予防と抑制およびテロ対策、多国間犯罪の取り締まり、大量破壊兵器の拡散防止など地球規模の問題にともに対応していく必要があります。中国側は、日本が国際社会においてより大きな役割を果たしたい願望を理解し、国連改革を含む重要な国際問題と地域問題について、日本側と対話と意思疎通を強化する用意があります。

議員の諸先生方、中国は改革開放を実行して29年来、経済・社会の発展の面で世界に注目される成果をあげてきました。しかし、中国は人口が多く、基盤が弱く、発展にはアンバランスの状況が存在し、依然として発展途上国であり、近代化を実現するにはまだ長い道のりがあります。われわれは2つの任務に直面しております。1つは、社会生産力の発展に専念すること、もう1つは、社会の公平と正義を推進することです。この2つの任務を達成するには、2つの改革を推進しなければなりません。1つは、市場経済を志向する経済体制改革、もう1つは、社会主義民主政治の発展を目標とする政治体制改革です。中国の発展には資源、エネルギー、環境などのボトルネックの制約がありますが、長年の努力をへて、われわれは発展のための新しい道を見いだしました。すなわち科学的発展観を確立・実行し、資源節約型、環境にやさしい社会を建設し、経済と社会の全面的かつ調和の取れた、持続可能な発展を促進することです。中国の発展は主として自力に頼ります。中国が発展すれば、周辺と世界全体の発展にしかるべき貢献をすることができます。われわれは科学的な発展、調和の取れた発展、平和的な発展を堅持し、中国を富強、民主、文明、調和の取れた近代化国家に築きあげるために努力してまいります。中国は昔から徳を重んじ武力を重んぜず、信を講じ、睦を修めるというすぐれた伝統があります。私は責任を持って皆さまに申し上げます。中国は平和・発展・協力の旗印を高く掲げ、平和発展の道を堅持し、調和のとれた世界の構築を推進していく決意は、永遠に変わりません。議員の諸先生方、揚州大明寺の鑑真記念堂に1つの石灯籠があります。これは、1980年に日本の唐招提寺の森本孝順長老が自ら送り届け、自ら燃したものです。この石灯籠は日本の唐招提寺にあるもう1つの石灯籠と1組となっています。この1組の灯籠は今なお消えることなく燃え続け、はるか遠くから互いに照り映え、中日両国人民の子々孫々にわたる友好の明るい将来を象徴しています。貴国には「風は吹けども、山は動かず」ということわざがあります。中日両国関係の発展は、風雨や紆余曲折をたどってきましたが、中日両国人民の友好の土台は泰山と富士山のように決して動揺することはありません。中日関係の美しい未来を切り開くために、両国政府と両国人民はたゆまぬ努力をしていく必要があります。われわれは手を携えて、中日両国の子々孫々にわたる友好を実現するために、中日両国の戦略的互惠関係の新たな局面を切り開くために、アジアおよび世界の平和と発展のためにともに奮闘努力していこうではありませんか。

ご清聴ありがとうございました。